

HORIGUCHI COFFEE Letter

No. 9
2022.06.22

私たち堀口珈琲は「コーヒーとSDGs」の取り組みの一つとして、2022 年はルワンダ共和国への理解を深める一年としています。今回はその活動の一環で現地へ訪問した様子をご紹介します。CSO（チーフ・サステナビリティ・オフィサー）伊藤のコラムの第 3 回は、「コーヒーとSDGs の関わりについて」です。

ルワンダ出張 報告記

4 月 18 日から 5 月 1 日まで、CSO の伊藤と EC 担当・島崎がルワンダへ行ってきました！今回の訪問目的は、現地コーヒー生産者組合と協働している「ニヤミラマ・プロジェクト」の進捗状況の確認と、昨年より新たに販売開始したコーヒーの生産現場の視察です。今回は出張の様子を少しだけ紹介します。

※「ニヤミラマ・プロジェクト」ではコーヒーの品質向上を基盤とし、生産者の生活安定の実現を目的としたさまざまな施策を行なっています。



詳細はこちら

 **Muraho Rwanda!**
ルワンダと出会い、深め、繋がる 1 年

12 月まで多様な企画を実施中！



詳細はこちら



ルワンダの中心・首都「キガリ」の街

キガリ屈指のバスターミナル「ニャゴゴ」では、バイクタクシーやサイクルタクシーが道を行き交う。



キガリ市内レストランでの昼食

現地の人が日常的に楽しんでいるメニュー。中央上部から時計回りに、蒸しバナナ、白米、マカロニサラダ、ポテト、豆の煮物。量が多い……（汗）。

精製施設の視察

昨年新たに販売開始した全 5 箇所の精製施設を見学。どこへ行っても歓迎のダンスで迎え入れてくれる。



【ニヤミラマ・プロジェクト】メンバーへ会いに

出張の後半は南部へ移動し、プロジェクトメンバー 11 農家の代表者が集まる会に参加。プロジェクトの成果を報告してくれた。記念にメンバーと集合写真を撮る。



こちらをご覧ください。「コーヒー産地ルワンダってこんな国！」
<https://www.kohikobo.co.jp/channel/16937/>

CSO 伊藤の 第 3 回 コーヒーとSDGs

コーヒーがSDGs と関わる理由

コーヒーはなぜSDGs と結びつくのでしょうか。

主な理由の一つは、生豆が開発途上国を中心に生産されていることです。しかも全世界の生豆の 70% は小規模な農家によって生産されています。彼らの中には、経済的・社会的・環境的に脆弱な立場に置かれている人も少なくありません。

もう一つの理由は、コーヒーの木が熱帯で育ち、本来は日陰を好む植物であることです。このためコーヒーの木は森林の中やそれに近い状態の畑（日陰をつくる高木も生える畑）で栽培できます。すなわ

ち、コーヒー栽培は熱帯の森林やそれに準ずる生態系の保全と両立できる可能性があるのです。にもかかわらず、現在、大半のコーヒーの木は森林を切り開いて造成された農地で栽培されています。増え続けるコーヒーの需要に対応するため、さらにコーヒー用の農地が必要になり、それが森林への圧力になっていることも懸念されています。

こうしたことから、コーヒーは主に生豆の生産国において次のようなSDGs の目標に密接に関わっています。すなわち、人々（People）に関するSDGs の目標 1～6（それぞれ貧困・飢餓・健康・教育・ジェンダー・水に関する目標）や目標 13（気候変動）、目標 15（陸域生態系）です。

生豆の生産に続く加工や流通、消費においてもコーヒーはSDGs と関わります。たとえば、焙煎時などに温室効果ガスが

発生することが目標 13（気候変動）と関連しますし、抽出かすという相当量の廃棄物が発生することが目標 12（製造・使用責任）と、包材に使われるプラスチックが海洋などの生態系に放出される恐れがあることが目標 14（海洋生態系）と関わります。

サステナブルコーヒー

SDGs と多くの面で密接に関わるということは、SDGs の前提となる問題や課題にそれだけ関係しているということでもあります。実際、コーヒーを原因とする人々の搾取や貧困化、森林を含む自然環境の破壊が歴史的には常態でしたし、現代においてもこうしたことの多くは解決されていません。

次ページへつづきます



だからこそ、こうした多くの接点でマイナスの影響をプラスに反転させることができれば、コーヒーはそのような問題・課題の解決に役立つこととなります。そうした役割を期待されるのが、いわゆる「サステナブルコーヒー」です。その代表格ともいえるフェアトレードコーヒーは生産者に公正な対価を払うことが基本ですし、環境系のNGOなどが認証する商品はコーヒーの木の栽培や生豆の生産による生態系の劣化を防ぐことを中心的な条件としています。

過大評価は禁物

残念なことに、昨今のコーヒー業界では「サステナブルコーヒー」が果たせる役割を誇張しすぎる言説も見受けられます。例えば、世界におけるコーヒー農家が2,500万世帯を超過することなどを根拠として、コーヒー産業の規模は大きい、それゆえその動向が世界の経済・社会・環境に与える影響も大きい、という主張です。1960年代であれば、確かにこれは妥当な主張だったかもしれませんが、現代においては必ずしもそうではありません。コーヒーの作付面積は他の熱帯作物（サトウキビやアブラヤシなど）に比べてすでに小さくなっていますし、多くの生産国の経済においてコーヒーの重要性も格段に低下しています。また、コーヒーの生産から消費に至るライフサイクル全体が世界の温室効果ガスの発生に占める割合もごくわずかです。

さらに言えば、現在の世界において最も緊急で重大な地球規模の危機に対してもコーヒーが果たせる役割はほとんどありません。そうした危機のひとつが武力紛争とそれに伴う多数の難民の発生です。

例えば、コーヒーが重要な産品であるイエメンにおいてさえ、コーヒーを通じた外国からの支援が入っていたにもかかわらず、結局は現在の激しい内戦の勃発を防ぐことはできませんでした。

それでもコーヒーにできることはある

しかし、こうしたマクロなレベルではなく、個別の事例においてはSDGsの達成に向けてコーヒーにもできることがあります。先ほどの武力紛争を例にとれば、紛争後の社会復興においてコーヒーが役に立った事例は数多くあります。紛争後に限らずとも、人々が貧困から脱するのにコーヒーが最も効果的に寄与できる時期や地域も実際に存在します。例えば、私が先日訪ねたルワンダの農家の人々は現金収入の実に7～9割をコーヒーから得ています。最近の品質向上と生産量増加を通じて収入が増えた結果、家族が健康保険に加入でき、子どもの教育費も増やせたと喜んでいました。

自分たちが扱う商材にこうした力があるのですから、私どものようなコーヒー事業者はその本業を通じてSDGsに貢献すべきです。とはいえ、だからといってコーヒーの役割や力を誇張するのはただけけません。なぜなら、それが事業者の過剰な自画自賛（いわゆる「SDGsウォッシュ」）につながるだけでなく、消費者の



ルワンダ訪問時。生産農家と一緒に。

判断も歪めるおそれもあるからです。すなわち、「サステナブルコーヒー」さえ買っていればあたかも自分がSDGsに多大な貢献をしているかのような誤解を消費者に与えるおそれです。そうした誤解がなければ、消費者は自分の資源（おカネや時間、労力）を別のところに振り分け、もっと実効的にSDGsに貢献できたかもしれせん。

確かにコーヒーはSDGsに貢献できます。しかし、過大な評価や期待は禁物です。マクロな規模で世界を変えることはコーヒーにはもはやできません。だからこそ、できることをきちんと見分けて、それにふさわしい役割を果たしてもらう。それが大切なのだと思います。

以上を踏まえて、次回以降はSDGsの個々の目標に対しコーヒーができることを探っていきたいと考えています。



Profile

伊藤 亮太 いたうりょうた

株式会社堀口珈琲
取締役CFO/最高財務責任者
CSO/チーフ・サステナビリティ・オフィサー

大学卒業後、宇宙開発事業団（現JAXA）に10年間勤務する。2002年にコーヒー業界へ転身し、2003年に堀口珈琲に入社。以来一貫して海外のコーヒー関係者との連絡調整を担当する。2013年4月から2020年6月まで代表取締役社長を務め、2020年7月より現職。

最新情報は
SNSで
随時更新中!



業務用コーヒーについて
発信しています!

@instagram
堀口珈琲ホールセールアカウント
@horiguchicoffee_warehouse

その他 SNS はこちら

@horiguchicoffee
@horiguchicoffee
@kohikobo

取材や掲載に関する
お問い合わせ先

株式会社堀口珈琲
広報担当：中川紗彩
TEL: 080-7333-4691
Email: s.nakagawa@kohikobo.co.jp

広報サポート
出口はる（フリーランス PR）

TEL: 090-2319-5605
Email: harudeguchi@gmail.com

堀口珈琲 ブランドサイト
<https://www.kohikobo.co.jp/>



店舗情報
<https://www.kohikobo.co.jp/shop/>



堀口珈琲 オンラインストア
<https://kohikobo.com/>



堀口珈琲の「今」を伝えるニュースレターを配信中!
ニュースレター バックナンバー
<https://www.kohikobo.co.jp/news/newsletter/>

